



NEWS 陸下陸



静岡産業大学 スポーツ教育研究センター 広報誌 July 2023 Vol.18

スポーツは不要不急なものではない!!

静岡産業大学 スポーツ振興部長 広岡 健一

私は前職にて、RWC2019日本大会及び東京2020オリパラ大会の静岡県開催に従事する中で、“スポーツ”の持つ力の凄さを体感しました。

まず、2019年のRWC日本大会では、海外から多くの方々が日本へ、静岡県へ来訪され、大変盛り上がった44日間でした。県内ではエコパスタジアムでの4試合、両政令市内に設置したチケットレスでもラグビーや食を楽しめるファンゾーンなどに約40万人の方々が訪れるなど熱狂を生み、本県への経済波及効果は約234億円と推計されています。

一方、2021年に延期された東京2020オリパラ大会では新型コロナウイルスの影響で海外からの来訪者は無く、本県の伊豆・東部地区で開催した自転車競技の観戦客は約2万人に留まったところでした。大会の開催自体に反対する意見が多かった中ですが、日本人選手の活躍もあり、終了後のアンケートでは“開催してよかった”が半数を超えました。

最近では、昨年のFIFAワールドカップカタール大会でのドイツ及びスペイン戦での逆転勝利、今年3月の2023ワールド・ベースボール・クラシックでの優勝などで大変盛り上がり、国民に勇気や感動を与えてくれました。今後も、FIFA女子ワールドカップ豪州&NZ2023や2023RWCフランス大会、2024パリオリパラ大会と続きますので、各国トップ選手の活躍が再び世界に感動を呼び起こすものと思います。

このように“スポーツ”には、人を励まし、人と人をつなぎ、地域や国を一つにまとめる力があります。スポーツで世界と未来を変えることができるのです。



コロナ過の中、約3年間にわたり、スポーツ活動は自粛を余儀なくされましたが、スポーツは不要不急なものではなく、人間が健康な生活を送るうえで必要不可欠な行動と言えます。

これまでも数多くのスポーツビジネスマンを養成、輩出するとともに、2021年にはスポーツ科学部を設置し、更なる取り組みを充実・強化している本学には、大学の持つ知や人材、施設などの資源を生かして、スポーツで地域を元気にする役目が期待されています。スポーツを愛する関係者の皆さんと共に、スポーツの価値の向上にむけて邁進していきましょう。スポーツが不要不急なものにならないように。

Contents

- 1 「スポーツは不要不急なものではない!!」
静岡産業大学 スポーツ振興部長 広岡 健一
- 2 「運動部活動指導の大阪体育大の取り組み」
大阪体育大学 体育学部 准教授 小林博隆

- 3 「生涯学習社会の形成に向けて」
静岡産業大学 スポーツ科学部 教授 松永 由弥子
- 4 「強化スポーツクラブの紹介 サッカー部 男子」

運動部活動指導の大阪体育大の取り組み

大阪体育大学 体育学部 准教授 **小林 博隆**



令和4年6月6日、国が運営する運動部活動の地域移行に関する検討会議において、「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」が取りまとめられ、今後、中学校部活動は地域のスポーツクラブ等が担うとされています。その際、課題のひとつとして指導者の育成と資質の向上が示されています。

この課題に取り組むべく、大阪体育大学では地域におけるスポーツ指導を希望する方、及び現在部活動を指導されている方を対象とした運動部活動指導認定プログラム(以下本プログラム)を構想し、令和5年5月13日から第一期生(59名)の受講がスタートしました(図1)。本プログラムは、本学が平成28年度スポーツ庁受託事業(スポーツキャリアサポート)で開発したプログラム「運動部指導実践論(体育学部選択科目)」、また令和元年度及び2年度スポーツ庁受託事業(運動部活動改革プラン)で開発したプログラム「グッドコーチ養成セミナー(本学学生を対象にした部活動指導に関するセミナー)」を基に開発されました。

本プログラム(30科目60時間)では、文部科学省が部活動指導員養成において例示した「学校の設置者等において実施する研修」の13項目や「コーチ育成のための『モデル・コア・カリキュラム』作業事業報告書」(日本スポーツ協会, 2016)を踏まえた本学独自科目をオンデマンドで履修することになります。さらに、「運動部活動とメンタルヘルス」「スポーツマネジメント」「スポーツマーケティング」を受講することにより、スポーツをみる・する・支える・つくることの重要性の認識を深め、組織運営力の向上を図ります。

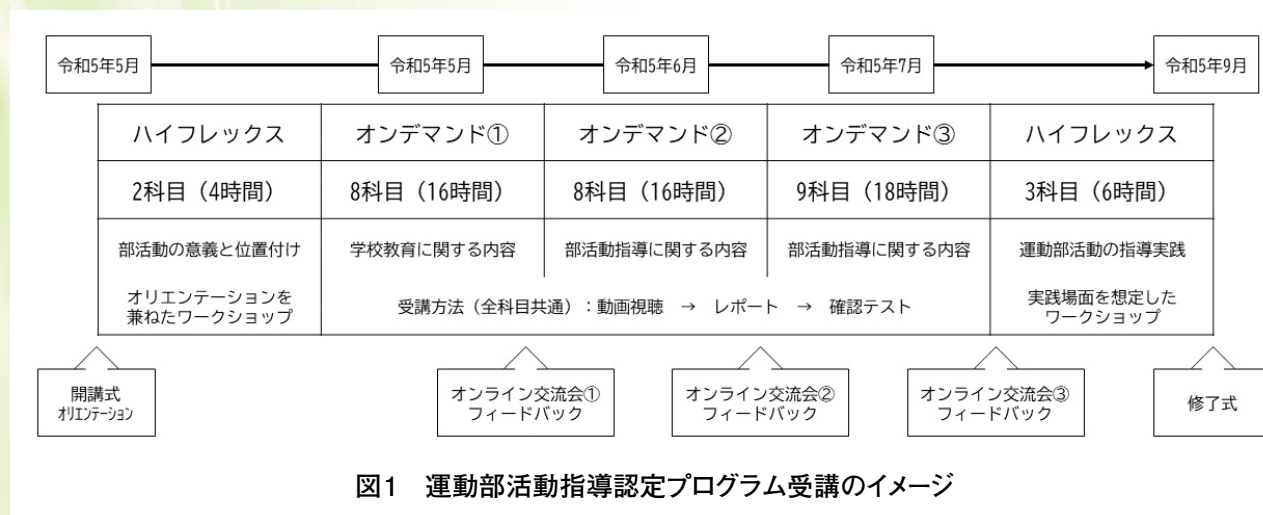


図1 運動部活動指導認定プログラム受講のイメージ

所定の課程を修了された方には、本学が発行する修了証に加えて、学校教育法が定める特別の課程である履修証明プログラムを修了したことを証明する「履修証明書」を交付します。

この課程は文部科学省の「職業実践力育成プログラム」テーマ:地方創生(地域活性化)に認定され、また厚生労働省の「教育訓練給付制度(一般教育訓練)」に指定されています。

生涯学習社会の形成に向けて

静岡産業大学 スポーツ科学部 教授 松永 由弥子

私の専門分野は、人々のスポーツ活動や生涯スポーツと関連がある、教育学の中の生涯学習・社会教育です。ここでは、私が近年取り組んでいる活動の一部と今後の研究の展望を紹介します。



全ての人が参画し、共に学び合う社会教育のあり方

以前から静岡県社会教育委員を拝命していますが、最近の令和2年11月から令和4年10月までの2年間は、第37期静岡県社会教育委員会の委員長として、諮問問題「誰もが共に学び合う生涯学習社会の形成に向けて-全ての人が参画し、共に学び合う社会教育のあり方-」の検討に取り組み、令和4年11月教育長に報告書を提出しました。この中では、第36期「社会教育と子供の貧困」の検討で浮き彫りとなった生涯学習社会の形成を阻む「孤立」に焦点をあてて、その分析と打開策をまとめました。現在の日本では、諸外国と比較しても教育制度が整備され、学習機会は人々に十分提供されているように見えますが、個々の具体的な事例を見ていくと、学習を必要としているにもかかわらず、学習活動に参加できず孤立してしまう実態もあるのです。

委員会で協議を重ねる中で、そのような実態は、孤立しがちな「人」ではなく、孤立を作り出す社会の側の「状況」に要因があるという考察にいたりしました。報告書では、孤立を作り出す状況を①社会全体に困り感の理解が得られていない、②学習機会及び活動の情報を届けられていない、③学ぶこと、つながることへの安心感がない、の3つにまとめています(「図 孤立を作り出す状況」参照)。そして、孤立を自分自身にも起こりうる状況と捉えて、お互いに認め合い学び合う社会となり、生涯学習が人々に浸透しあまねく行われるためには、社会教育の、①学びの場にいるお互いが学び合い教え合う、②学習者それぞれの自由な学びをその人に合わせた形で提供・支援できる、という2つの特長を積極的に活かして、孤立を作り出す状況が打開されることを提案しました。打開策のキーワードは、「体験」「交流」「一人一人」「当事者の目線」「学ぶ楽しさ」「居場所づくり」です。

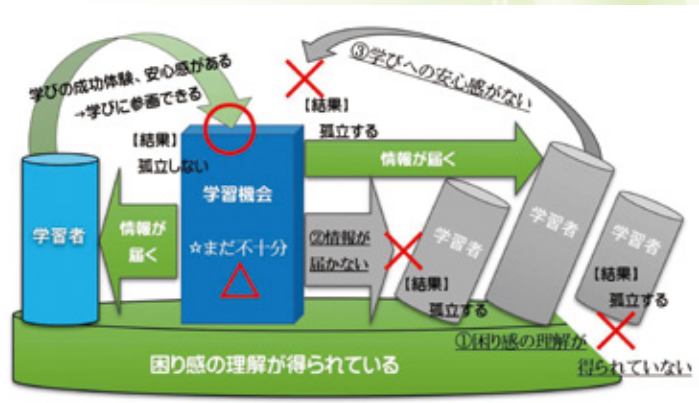


図 孤立を作り出す状況

学習者自身の学習継続性維持へのアプローチ

このような社会的活動で得た知見等は、研究活動にも積極的に活かすようにしています。元々、人はどのように学習を続けるのか、その継続性の傾向や特徴、継続性を支える仕組みづくりに関心を持ったのが研究活動の端緒です。そこで、今後さらに取り組んでいきたいテーマの第1は学校教育中心ではなく、学校は勿論、人々が生活する家庭、職場、地域社会、それら全体で、人々の学習を支援する制度の構築です。孤立に焦点を当てた第37期静岡県社会教育委員会での検討作業は、大いに参考になりました。テーマの第2は各人の学習行動を支える知的好奇心を高めるものの見方・考え方の検討です。学習は周りの状況を整えたとしても、最終的に重要となるのはその人の学ぶ意欲、学ぼうとする事柄への関心の度合いです。そのやる気、関心の持ち方、それらの背景にある知的好奇心への具体的なアプローチ方法を開発したいと考えています。テーマの第3は自己肯定感を高め、もてる能力を十分発揮できるようにするための教育内容としての「地域の偉人の学習」の有用性の検討です。孤立解消に向けてお互いの存在を認め合う際、それぞれの自己肯定感が重要な鍵を握る場合があります。そこに地域の偉人学習は意義を見い出せるかどうか検討したいと考えています。

強化スポーツクラブの紹介 サッカー部 男子



スタッフ

- 部長 : 中西 健一郎
副部長 : 齊藤 智洋
総監督 : 成嶋 徹
ヘッドコーチ : 加藤 知弘
コーチ : 朝比奈 純也 井畑 翔太郎 室田 叶夢 寺田 翼

目標

チームとしては「常勝軍団」をキープし、全日本のタイトルを獲ること。個人としては社会人になる準備と考え部活動を通して人間的な成長と競技力の向上に努めること。そして「このチームでサッカーをしたい」「このチームの試合が見たい」と思われる活動をする。

活動実績

- 全国大会出場回数 全日本大学サッカー選手権大会：14回
総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント：7回
天皇杯全日本サッカー選手権大会：3回
- 全国大会戦績 全日本大学サッカー選手権大会：3位(2005)
総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント：準優勝(2007)、3位(2004・2009)
インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバル：3位(2018)

Jリーグ・JFL選手の輩出 J：17名、JFL：27名

近況情報のチェック

最近のスケジュールや試合結果など確認することができます。
右のQRコードより是非ご確認下さい。



静岡産業大学
Newsletter

静岡産業大学 スポーツ教育研究センター
発行日 2023年7月17日 発行人 堀川知廣
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1 ☎0538-37-0191(代表)

